

保存版

とちぎの子どもの「確かな学力」向上のために 授業改善に向けた3つの視点

平成27年11月 栃木県教育委員会

本資料では、「全国学力・学習状況調査」及び「とちぎっ子学習状況調査」の結果から明らかになった課題を踏まえ、とちぎの子どもの確かな学力を向上させるために、授業改善に向けた具体的な取組を提案します。リーフレット「とちぎの子どもの『確かな学力』の向上のために～平成27年度全国学力・学習状況調査結果から～」（栃木県教育委員会 H27.11）と併せて活用し、日々の授業改善にお役立てください。

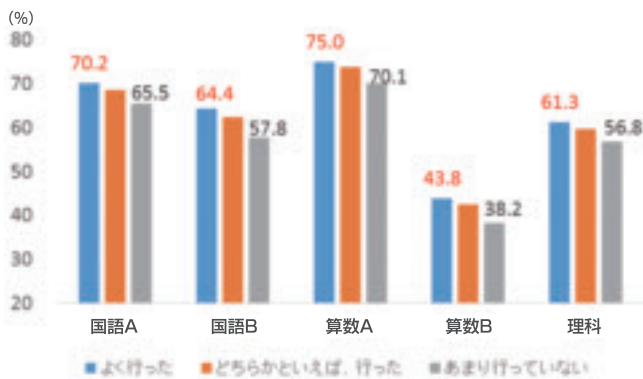
各教科の調査結果から明らかになった課題(抜粋)

◆資料や情報に基づいて自分の考えを明確に記述したり、筋道を立てて表現したりする等の記述式問題の正答率が低い。

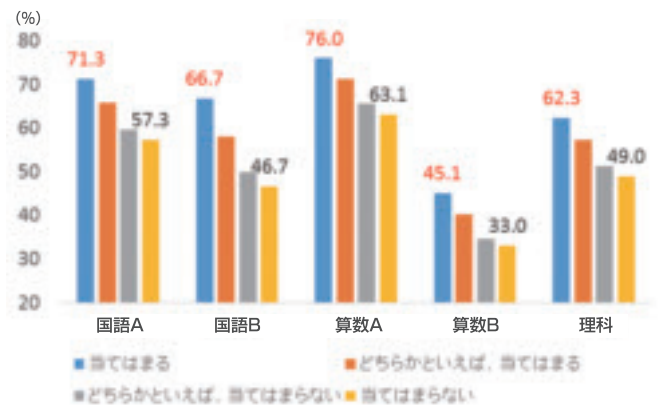
質問紙調査結果から明らかになった課題(抜粋)

◆授業において、ねらいの提示や振り返りの実施状況について、学校と児童生徒の捉え方に差が見られる。

◆「前年度までに、自分で調べたことや考えたことを
分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか」と平均正答率のクロス集計
※全国学力・学習状況調査(栃木県)学校質問紙(小学校)



◆「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思いますか」と平均正答率のクロス集計
※全国学力・学習状況調査(栃木県)児童生徒質問紙(小学校6年)



「よく行った」「当てはまる」と回答した学校や児童・生徒の方が平均正答率が高いことが分かります。

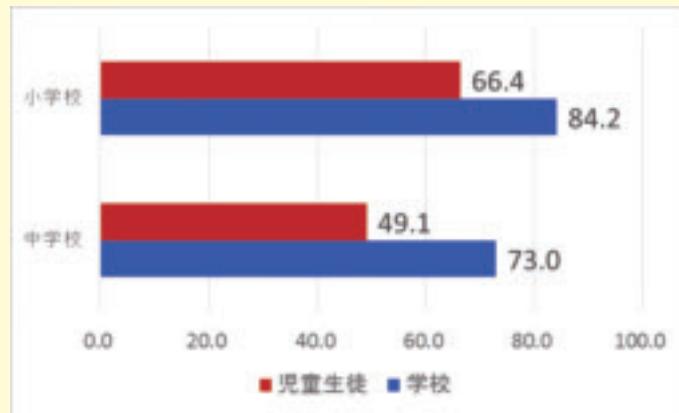
授業改善に向けた3つの視点

- 視点1 授業の目標(めあて・ねらい)を子どもたちに示すこと
- 視点2 授業を振り返る活動を行うこと
- 視点3 どの子にも自分の考えを書く習慣を付けさせること

各学校において、ねらいの提示や振り返る活動は、日々の授業の中で「当たり前」のこととして捉えられているかもしれませんが、その「当たり前」の活動が、児童生徒との関係で共有できているか、学習意欲の向上、学習内容の確実な定着につながるものとなっているか再度、確認する必要があります。また、自分の考えを書く活動やそれを基に人に伝える「説明」「話し合い」などの活動についても、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成につながるものとなっているか、改めて日々の授業実践を検証することが大切です。

視点1 授業の目標(めあて・ねらい)を子どもたちに示すこと

- 児童生徒：授業のはじめに、目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか
 - 学 校：授業のはじめに、目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れましたか
- ※ 「はい」と答えた割合



平成27年度全国学力・学習状況調査(栃木県)



上のグラフを見ると、先生は「ねらい」を示していると思っていても、児童生徒は「ねらい」が示されていることを、あまり意識できていないということが分かりますね。

そうですね。「ねらい」の提示について、学校と児童生徒の捉え方に差が生じてしまうのはなぜだと思いますか？



「ねらい」が先生から与えられたものであって、児童生徒にとっては自分の問題になっていないからでしょうか。

そうですね。児童生徒が「ねらい」を自分の問題と捉えることで、この授業を通して「何を学ぶのか」を意識し、主体的に学習に取り組むことにつながりますね。



今まで、私は「ねらい」を黒板に書けば、児童生徒が学習の目標を理解すると思っていましたが、「ねらい」を児童生徒と共有するための手立てを工夫することが大切ですね。改めて、「ねらい」を示すことについて見直してみます。

とても大切なことですね。「ねらい」を示すことで、児童生徒に授業で何を学ぶのかを意識させることができます。また、児童生徒に設定した問題を解決するためにどのように学習を進めていくか見通しをもたせることで、主体的に学ぶ態度の育成や学習意欲の向上等が期待できますね。



□ 本時の学習指導を通して身に付けさせたい力を明確にした上で「ねらい」を設定していますか

☑チェック

□ 「ねらい」を設定する際、先生と児童生徒のやりとりを大切にしていますか

□ 児童生徒の実態に応じて、学習意欲を高められるように「ねらい」の表現を工夫していますか

□ 「ねらい」から「振り返り」までのつながりを意識していますか

(例) 教師側から一方的に示した「ねらい」

※ 小学校理科 第4学年「B(3)天気の様子」

before

今日は実験をします。ねらいを、「水は熱しくなくても、蒸発して空気中に出ていくのか調べよう」とします。

どんな風に勉強するのかな？

(例) 教師と児童生徒のやりとりの中で示した「ねらい」

after

先生は今朝、教室に来て驚いたことがありました！
なんと、教室にある水槽の水がいつの間にか減っていました。

えー！なぜだろう？

蒸発したのかしら？

水は、100℃近くにならなくても蒸発するの？

それでは、みんなで実験を行って、調べてみましょう。ねらいを、「水は熱しくなくても、蒸発して空気中に出ていくのか調べよう」としましょう。

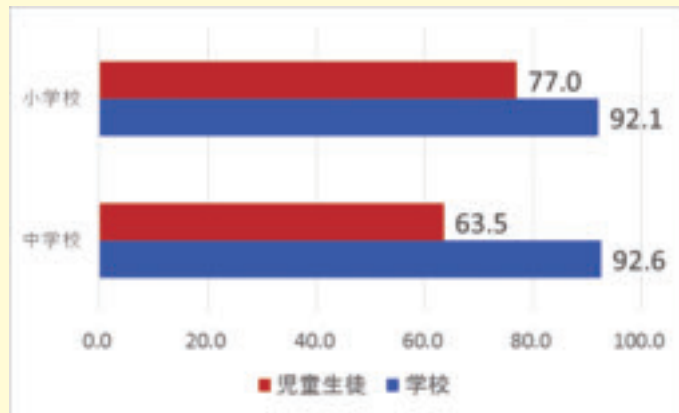
わくわくするね！どうすれば調べられるかな？

「ねらい」を設定するにあたり、「ねらい」が児童生徒の学習意欲を高めるものとなるように、児童生徒の体験と関連付けたり、学習内容を想起させたりするなどの工夫をしましょう。

視点2 授業を振り返る活動を行うこと

- 児童生徒：授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか
- 学 校：授業の最後に、学習内容を振り返る活動を計画的に取り入れましたか

※ 肯定的回答の割合



平成27年度全国学力・学習状況調査(栃木県)



先ほどの「ねらいの提示」と同様に、「振り返る活動」についても学校と児童生徒の捉え方に差があることが、このグラフから分かります。私も授業の終末になると、時間がなくなってしまい、「振り返る活動」がおざなりになってしまいがちです。

そうですね。「振り返る活動」は大切だと分かっているけど、授業の終末は慌ただしくなってしまうと行えなかったり、「振り返る活動」を行っていても、じっくり見る時間がなくて、書かせたままになっていたりすることもあるでしょう。そもそも、「振り返る活動」を何のために行うのでしょうか？



児童生徒が、その時間にできるようになったことを振り返るためでしょうか。

そうですね。そのため、振り返りカードなどに「分かった」「楽しかった」と○を付けるだけではなく、授業でどのような課題に向き合い、何が分かったのかを具体的に書かせる等、児童生徒が「何を学んだのか」を実感させることが大切です。



児童生徒が、「できた！」「分かった！」を実感することを積み重ねていくことは、学習意欲や主体的に学ぶ態度等を育むことにつながりますね。

大切なことですね。そのため、方法を工夫しながら、「振り返る活動」の時間を確実に位置付けることが大切です。また、児童生徒の振り返りに対して、具体的な言葉かけをしていくことも大切ですね。



- 本時の学習活動を通して、子どもたちが何が分かったのか、何ができるようになったのか等自分の学びを振り返る時間を確実に位置付けていますか

☑チェック

- 発達の段階に応じて、振り返る活動を工夫していますか

- (例)
- ・ 決められた用語を用いて説明しましょう。
 - ・ ○字以内で書きましょう。
 - ・ 提示した適応問題を解いてみましょう。 など

- 児童生徒の振り返りから学習状況を把握し、本時の「ねらい」を達成できたか確認(評価)し、次時の授業に生かしていますか

平成27年度全国学力・学習状況調査 小学校国語Aの大問3を活用した「授業アイデア例」(国立教育政策研究所作成)による授業で考えられる「振り返る活動」

本時のねらい 「美化委員からの提案について、聞き方を工夫して聞こう」

- ・ 学習活動1 提案を聞き、大事だと思ったことや考えを各自ノートに書く
- ・ 学習活動2 ノートに書いた自分の考えを発表し合い、分類・整理する
- ・ 学習活動3 「聞き方のポイント」に気を付けてもう一度提案を聞き、自分の聞き方を振り返る

(例) 何を振り返るのが明確でない教師の指示

before



今日の授業の感想を書きましょう。



提案をしっかり聞くことができました。

(例) ねらいを踏まえた教師の指示

after



これまでの自分の聞き方を振り返り、これからの生活でどんな聞き方の工夫をしていきたいか、提案を聞くときのポイントの言葉を使って書きましょう。



今まで、あまり考えたことがなかったのですが、これからは自分たちの様子と重ね合わせて提案を聞くことが大切だと分かったので、気を付けたいと思います。

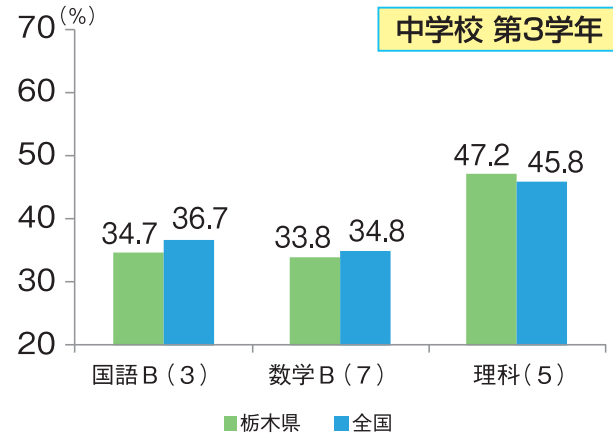
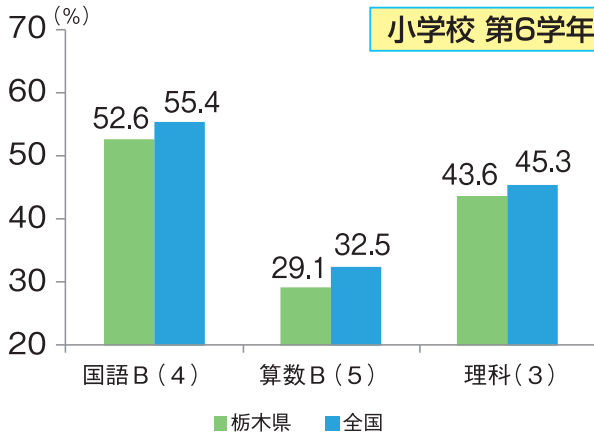
※下線部は学習活動2でまとめた提案を聞くときのポイント

児童生徒自身にとって「振り返る活動」は自分の学びを評価する活動です。結果として、授業で「何を学んだのか」を実感できるよう「振り返る活動」を授業の終末に確実に位置付けましょう。

視点3 どの子にも自分の考えを書く習慣を付けさせること

記述式設問の正答率

※横軸：問題(記述式設問数)



平成27年度全国学力・学習状況調査



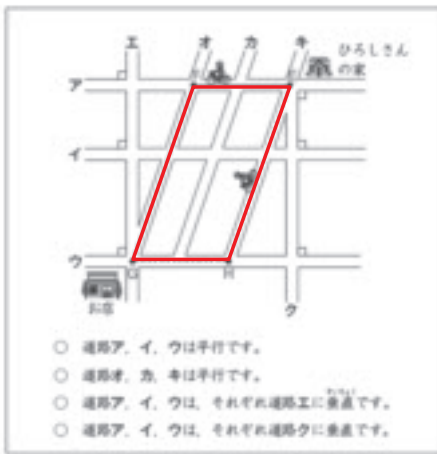
例えば、次のような場面では、どんな課題があるでしょうか？

(例)地図に示された図形が平行四辺形であることを、平行四辺形の性質を用いて説明する場面

※小学校算数 第4学年「C図形(1)アイ」

before

ひろしさんは、下の地図を使って、家からお店まで行くときの道通を考えています。



左の地図からどのような図形が見つかるでしょうか？



赤線を引いたところが、平行四辺形になると思います。

Aさん

Aさんが発表してくれたように、その四角形が平行四辺形である理由を説明してみましょう。



私は「道路ア、イ、ウと道路オ、カ、キは平行です。」と問題文に書かれているので、赤線を引いたところが平行四辺形だと思います。

Bさん

そうですね。問題文に書かれているように、道路ア、ウと道路オ、キはそれぞれ平行ですね。向かい合う2組の辺がそれぞれ平行なので、赤線を引いた四角形は平行四辺形といえます。



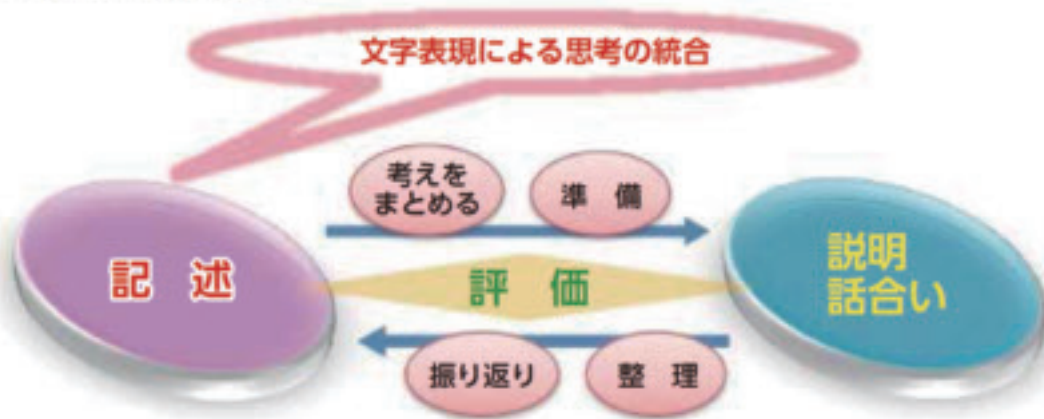
この例では、Aさんが示した四角形が平行四辺形であること理由として、Bさんは、問題文に書かれている事実のみ述べています。Bさんの意見は、理由として十分でしょうか。また、他の児童(生徒)は、どこまで理解できているのでしょうか。さらに、この場面で、Bさんの意見を基に、他の児童(生徒)にも考えさせたいところですが、先生がBさんの意見を補足しながら、先生の言葉でまとめてしまっています。



思考力・判断力・表現力等を育成するために、授業において自分の考えを書く活動を意図的に位置付けることが大切です。また、書く活動と「説明」「話し合い」などの活動を関連付けることによって、自分の考えをまとめ、整理させることが大切です。

● 「記述」と「説明」「話し合い」を意識的に関連付ける

授業のねらいの達成に向け、自分の考えをまとめ「記述」する活動と、言葉で人に伝える「説明」「話し合い」といった活動を相互に関連付けることが大切です。その際、児童生徒の発達の段階や教科の特性を考慮する必要があります。



関連付けの例

- 「説明」や「話し合い」の前に自分の考えや判断の根拠を「記述」させる。
- 「説明」や「話し合い」を通して分かったことや考えたことを整理して「記述」させる。
- 「説明」や発表をした人の考えや意図を解釈させ、「記述」させる。

※教科の特性や学習活動、目的や必要などに応じて、図や表にまとめたり箇条書きにしたり、字数を制限したりするなど「記述」のさせ方を工夫することが必要です。

「主体的に考え表現できる子ども」を育てるために 栃木県教育委員会(平成26年)

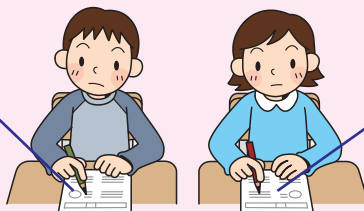
after

Aさんが発表してくれたように、その四角形が平行四辺形である理由を書いてみましょう。



私の考え：

道路ア、イ、ウと道路オ、カ、キが平行だから、赤線で示した四角形は平行四辺形といえます。



私の考え：

向かい合う辺が平行だから、赤線で示した四角形は平行四辺形といえます。

道路ア、イ、ウや道路オ、カ、キの全部を書く必要があるかな？



記号を使って書くと分かりやすいですね。

※話し合い活動の中で、思考や表現が結び付いていきます。

理由：

問題文から、道路ア、ウと道路オ、キはそれぞれ平行です。つまり、向かい合う2組の辺がそれぞれ平行なので、赤線で示した四角形は平行四辺形といえます。

授業の流れにおけるポイント

導入

目標(めあて・ねらい)の共有化

- ◇ 先生と児童生徒でねらいを共有し、学習の見通しをもたせましょう。

展開

自分の考えを書く活動の習慣化

- ◇ 自分の考えを書く活動と、言葉で人に伝える「説明」「話し合い」などの活動を相互に関連付けましょう。

- ・ 体験から感じ取ったことを表現する活動
- ・ 事実を正確に理解し伝える活動
- ・ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする活動
- ・ 情報を分析・評価し、論述する活動
- ・ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する活動
- ・ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる活動 等

中央教育審議会答申「幼稚園・小学校・中学校・高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」(平成20年1月)

終末

振り返る活動の工夫

- ◇ 児童生徒が自己の学びを実感できる時間を確保しましょう。
- ◇ 児童生徒の振り返りから、実態を把握し、授業改善・指導方法の工夫に向けたヒントを見つけましょう。

とちぎの子ども「確かな学力」の向上に向けて、「ねらいの提示・振り返る活動」と「自分の考えを書く活動」を適切に位置付け、主体的な学習活動をより効果的に展開しましょう！

参考となる資料について

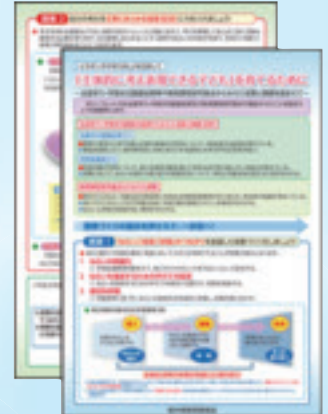
※これらの資料はそれぞれのホームページからダウンロードすることができます。



平成27年度全国学力・学習状況調査関連資料
文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター



とちぎの子ども「確かな学力」向上を
図る授業改善例



「主体的に考え表現できる子ども」
を育てるために

栃木県教育委員会(H26年度)